

空き家の流通問題と問われるコミュニティ力 ～新狭山ハイツの取り組みから考える －住宅地開発のその後の動向を追う その5－

人口減少、少子高齢化時代を迎えた今日、住宅団地における空き家問題の深刻さが増しつつある。その要因として空き家が市場に出ること自体が容易でないことや、空き家所有者が管理や活用について問題を抱えていることが知られている。さらに、将来的にも所有者が亡くなる場合や、高齢者施設への転居などで、空き家の急増が懸念される。

一方、築46年を経過する分譲集合住宅団地の新狭山ハイツでは、住民組織であるNPO・自治会・管理組合が長年にわたってコミュニティの醸成に大きな役割を果たし、さらに近年では住民から信頼される不動産事業者が加わることで空き家の流通を実現させており、空き家流通問題に一石を投じている。よって当シンポジウムでは空き家の流通問題やその解決策の可能性等について、新狭山ハイツの関係者をパネリストに招き、考察・討論し、議論を深めていく。

【プログラム】

14:30 受付開始

15:00 シンポジウム開始

① 主催者挨拶・趣旨説明

稲見成能(前橋工科大学)

② 事例解説(予定)

- ・新狭山ハイツの概要、NPOの取り組み
- ・新狭山ハイツにおける空き家再生の取り組み
- ・新狭山ハイツの空き家流通の可能性

<休憩>

質問票の配布・回収

③ 討論、質疑応答

17:30 シンポジウム終了

【司会】

稲見成能(前橋工科大学)

【事例紹介・討論者】

毛塚宏(NPO グリーンオフィスさやま代表理事)

山本誠(団地生活デザイン代表)

小場瀬令二(筑波大学名誉教授)

参加費(資料代含む)

- | | | |
|------|--------|---------------------------|
| ・会員 | 1,000円 | 定員50名 |
| ・会員外 | 1,500円 | (申込先着順) |
| ・学生 | 無料 | 申込みはこちらから |

日時:2020年3月3日(火) 15:00～17:30

場所:日本大学理工学部 1号館第2会場

(132教室/東京都千代田区神田駿河台1-8-14)

主催:日本建築学会関東支部 都市計画専門研究委員会

〇問い合わせ先:日本建築学会関東支部 事務局

TEL:03-3456-2050 メール:kanto@ajj.or.jp

新狭山ハイツは、1973年から入居開始された民間分譲団地で、5階建て住棟32棟で構成されている。その新狭山ハイツでは、築70年以上建替えせずに住み続ける団地の長寿化に取り組むことが目標とされ、自治会だけでなく、団地管理組合、NPOによる様々な活動がなされている。

「NPOグリーンオフィスさやま」は、40年のストックを活かしながら、多様な主体が連携、安心して楽しく住み続けられるよう、コミュニティ・カフェ、パソコン教室、展覧会、緑化推進、居酒屋&ライブなどが主催している。さらに、空室解消をめざしたインスペクション・リノベーションがなされており、「団地生活デザイン」によるリフォームや、シェアハウスも運営されている。

このような地域コミュニティによるエリアマネジメント、住戸リフォームによる魅力向上がなされていることで、他の地域から多くの管理組合が参加する見学会が開催されて、テレビ番組などのマスメディアにも多く取り上げられている。

